

第105回 萩句会報告 順不同

日時 2018年4月9日(月) 14時～17時

兼題「落角」

- 川井素山 ○巢立つ娘の言葉少なき夕餉かな
草餅や月の兎の落としもの
花を追ひ後願ひの留守電話
諍ひの子に親詫びる落とし角
- 保井寶正 ○角落ちて暫し夢見る涅槃かな
万感の一本桜は巨瀑かな
土筆伸ぶ素足の赤子駆け回る
棘隠し陽に笑へむや木瓜の花
- 佐久間喬 ○墨堤に乾杯の声風光る
暮れなずむ花の峠や色深め
居酒屋の隅に座りし春の暮
夕暮れの角落ち鹿の眼は優し
- 後藤克彦 ○父植えし枝垂れ桜や我も老ゆ
葉桜やベンチの下に宴の跡
妻と行く忘れ角あり奈良の旅
手をつなぎ老いて通るや花のアーチ
- 丸山酔宵子 ○角落とし群れを離れる男鹿かな
花菜漬なづけきざみ茶漬の一人の夜
日が暮れて囚らず身振ひ花の冷
花は葉に緑潤ふ小雨かな
- 菊地崇之 ○春灯や眠りへ誘ふ語りの会
落角やトランプ為すは信長流
初蝶やはらりはんなりしゃなりかな
若き日の母に会ふかや花すみれ
- 吉田啓悟 ○天気雨海市をみんと旅に出る
春愁やシャンソン歌手の黒づくめ
山門の日の出の頃や落とし角
惜別の時の流るる春の宵

- 青木英林 ○子供等が釈迦に説法灌仏会
古都の朝犬の吠え声落し角
庭隅に血汐の如く椿散る
鳥達が田起しを待つ朝餉時
- 山本草風 ○夕暮に梵鐘響く花の雨
らっかく
落角も戦う意欲失はず
はじらひの顔少しある入学式
友逝きて桜薬降る思い出道
- 佐伯兵庫 ○粧し込み自撮りに夢中木の芽時
老いの恋言葉少なき花見酒
喜寿近く落し角見てサブリ増え
鳥帰る年金暮らしひとり酒
- 佐久間たか子 ○水の音に風の語りて山笑う
黄昏の動物園に落し角
湖につらなる桜ゆさゆさと
山路の花さがしつも忘れ角
- 渡辺鯨波 ○角落ちて芸人のごと鹿の貌
電動の歯ブラシにする木の芽時
謙虚なる少年棋士や風光る
パンダの子でめぐり返り水温む
- 金森純女 ○落し角肩寄せ合える若き鹿
春の鴨池のほとりに眠りをり
目借り時一杯呑んで帰りけり
噛みしめてえぐみまた良し土筆かな
- 澁谷瑠璃 ○角落ちて立派を競ふ意味も無し
うすごおり
薄氷 モース硬度で測れるか
陽炎や解読出来ぬシャムの文字
白魚のやうな手泳ぐ水屋かな
- 原 晶如 ○草上のはなし弾みし落し角
黙々と崩れゆく城霾ぐもり
島と島呼び寄せてゐる海女の笛
さくら散る髪に袴にけふ発つ日

永井正孝 ○闘鶏の蹴爪の技を榮^はやしたて
感覚が定まらぬのか落し角
積^{せきてん}奠を控え静かな大成殿
春燈に覚束無しや病み上り

青葉ひかる ○どの道も茨に満ちて春の別れ
花終わるウエストサイドストーリー
桜吹雪母旅立ちし日蘇り
春日山芽吹く緑に角落ちて

次回「萩句会」

日時 2018年5月14日（月）14時～17時
場所 下目黒住区センター第二会議室

兼題 『落角』一句
当季雑詠 三句